

学校評価部

部長：大西康夫

副部長：大塚仁史

(1) 今年度の目標

- ①学校評価活動の改善について、実施内容や方法、学校評価書を本年度の実態に合わせ、教員の業務改善により効果が見られるよう工夫する。
- ②学校活動の外部公開の一部として、中学生およびその関係者向けの活動を行い、本校の教育活動について知りたい情報を提供する。

(2) 主な取り組みの計画

- ①学校評価のための基礎資料収集を次のとおり行う。
 - ア 公開授業（4月、11月）のアンケート集計と分析を適切に行う。
 - イ 生徒による授業評価、教員による内部評価を含め項目などを精選して行い、学校評価活動の取りまとめを適切に行う。
- ②オープンスクール（8月）の企画・運営を適切に行うとともに、昨年度みられた問題点の改善を試みる。
- ③ホームページの充実と適時的な更新を行う。

(3) 成果

- ①ア 公開授業の来校者数とアンケート回収率は以下の通りである。
 - 第1回(4/25～26・PTA総会) 来校者総数140名(回収率21.4%)
 - 第2回(11/13～14・1年進路選択説明会) 来校者総数45名(回収率17.8%)校舎改築もあり来校者が少なかったと思われるが、来校者名簿に記入していない人も多い。アンケート回収率が低かったが、授業のあり方等について貴重な指摘や激励の言葉をいただけて、参考になった。
- ①イ 「生徒による授業評価」・「保護者・生徒のアンケート結果」・「教員の自己評価」
 - 「生徒による授業評価」は各教科の授業の理解に関する生徒の実態を把握し、授業改善に活かす手段として有意義であった。特に文章による評価が参考になった。
 - 「教員の自己評価」と「保護者・生徒のアンケート結果」は、保護者や生徒の評価と教員・学校側の評価との差異を確認し、その差異が生じている理由や対応策を考える上で有意義であった。
- ② オープンスクール
昨年度と同様に、夏休みに実施した。今年の参加者は、中学生419名、保護者76名、引

率中学教員21名という多数の参加があった。内容については、概ね好評であり、「在校生と中学生の懇談会」は高評価であった。

③ ホームページ

ホームページ内のファイルを整理し、内容更新も適切に実施できた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

①・アについて…アンケートの回収率が低くなったので宣伝活動を増やす等の対応策を考えたい。

①・イについて…「生徒による授業評価」・「教員の自己評価」については、これまでも改善してきたが、さらにアンケート項目の改善や精選を促し、第三者が見ても分かりやすい内容にしたい。

保護者等の学校関係者へのアンケート内容も回答しやすいものに工夫していく。

② オープンスクールについて

来年度から、新校舎を使つての実施であり、運営方法の検討が必要である。

③ ホームページについて

適切に運営されている。甲子園出場が決まった頃に、激励の書き込みが掲示板に多く寄せられた

④ その他

○学校評価部の任務を再検討し、この分掌に所属している教員が本来の任務に力を合わせて取り組めるようにしていく。